

多様性の尊重

先日、人権学習出前講座で、『多様性入門』というDVDの視聴を行いました。3つの話で構成されていて、最初の話は、日本社会の常識が外国人社員に理解できず、外国人社員の常識が日本企業で通用しないというものです。

具体的に言うと、旧正月に有給休暇を使って、2週間祖国へ帰ろうと計画しているベトナム社員と、それを認めていいものかどうか頭を悩ます課長の話から始まります。課長は、有給休暇をとるのはいいが、2週間も休むと担当している仕事が回らず、周りの人に迷惑をかけることに難色を示しているのです。

皆さんは、どう思われますか。「有給休暇は労働者の権利だから認めるべきだ。」「外国人だから、祖国への帰省はお金と時間がかかるので2週間の有給休暇を認めてもいいのではないか。」と考える方もいるでしょう。また、「同じ職場の人に迷惑をかけないようにもう少し有給休暇を短くすべきだ。」「ここは日本なので日本の慣習を考えると、2週間は長過ぎだ。」と認めない方がいいという意見もあるかもしれません。

ここで、多様性という視点で考えてみたいと思います。多様性の尊重とは、外国人、障害のある人、性的少数者の人等マイノリティの人を受け入れることだと考える人が多いのではないのでしょうか。しかし、マイノリティの人を認めることと何でも受け入れることは違います。マイノリティの方々もいろいろな考えを持っています。生まれ育った環境や教育で、それぞれ考え方が違います。その考え方はその人なりの正論になります。だからこそ、しっかり聴く姿勢は大切です。そして、話を聴いた上で、それがルールに合っているかどうか検討することが大切になります。学校なら学校のルール、仕事なら職場のルールや社会のルールから大きく外れていれば、すべてを受け入れるべきではないでしょう。

多様性の尊重は、一人ひとり違うことを認めることから始まります。同じことを見ても、人により視点が違うので、異なる考えになります。その考えの違いは、どうして起こったのかを話し合うことで、相手を理解し、その違いを認めることができるようになります。マイノリティの方は、マジョリティの方では考えられないアイデアを出してくることも多いのではないのでしょうか。今までにない考えを認めることが、私たちの視野を広げてくれるでしょう。多様な考えを出し合い、どうすればいいか考えていくことで、誰もが暮らしやすい社会になっていくと思います。